

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
電話番号	0827-83-0036	事業所番号	3577200920
法人名	有限会社 龍泉		

訪問調査日	平成 20 年 12 月 10 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 13 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	20 人	常勤 8 人 非常勤 12 人 (常勤換算 13.3 人)	

(2)建物概要

建物構造	木造(在来工法)	造り
	1 階建ての	～ 階部分

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 42,000 円		敷金	無 円	
保証金	無 円		償却の有無	無	
食費	朝食	200 円	昼食	250 円	
	夕食	400 円	おやつ	150 円	
その他の費用	月額 13,000 円				
	内訳 光熱費10,000円		共益費3,000円		

(4)利用者の概要 (12月10日現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
	要介護1 3	要介護4 5	
	要介護2 1	要介護5	
	要介護3 9	要支援2	
年齢	平均 87 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医科 松井医院 歯科 おかもと歯科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

居室はガラスの引き戸で自由に入出でき、日中はすべての出入り口に鍵をかけないケアが行なわれ、運営推進会議に出席した利用者から「鍵がかかっていないので自由に出入れて嬉しい」との意見もありました。利用者の体によいものと食材や出汁にこだわりを持って、栄養士の立てた献立でバランスのよい食事を提供されています。

(特徴的な取組等)

年1回家族の集いを開催され、花火大会後に食事をし、家族の意見を聞かれ、運営に反映しておられます。花火大会では美容師だった利用者が家族の手を借りながら、職員や他の利用者の浴衣の着つけをされるなど、利用者が活躍できる支援が行なわれています。2ヶ月に1回、歯科医の往診があり、噛み合わせやブラッシングの指導を受け、口腔ケアを毎食後行ない、口腔内の清潔保持の支援が行われています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果について、運営推進会議での意見交換など出来るところから取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を理解され、自己評価書を申し送りノートにファイルし、職員全員が確認し、職員が記入出来る項目は記入してもらい、運営者の項目は運営者の意見を聞き、最後は管理者と計画作成者がまとめておられます。

(運営推進会議の取組状況)

自治会長、民生委員、地域住民代表3名、消防署長、地域包括支援センター職員、利用者2名、家族2名、職員のメンバーで2ヶ月に1回行なわれています。状況報告、施設からの要望、消防訓練に地域の人の参加呼びかけ等話し合われています。

(家族との連携状況)

毎月1回、日々の暮らしぶりを写真に撮り、一人ひとりのホーム便りを作成し、家族へ送付されています。家族の来訪時に健康状態や金銭管理を報告し、状態の変化に応じて電話で連絡されています。誕生会に家族の参加を呼びかけ、家族も参加されています。年1回家族の集いを開かれ家族が自由に意見を言われる機会を設けられています。

(地域との連携状況)

毎月1回地域向けの広報紙を発行され、7地区に回覧されています。利用者は地域の敬老会、盆踊り、芋煮会に参加され、職員は地域の清掃作業に参加されています。施設で行われる花火大会、運動会に地域の人に呼びかけ、地域の人との交流の場となるように支援されています。フォークダンス、歌、舞踊などの地域のボランティアの来訪も行なわれています。

評価結果

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	大家族主義を掲げ、「利用者の方が地域の中で、その人らしく毎日穏かな生活が過ごせるよう、家族の温かさを大切に、家族として寄り添います。」という理念をつくりあげている。		
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	新人研修で理念について説明している。ミーティングで理念の大家族のように共に生活することを確認し共有して、日々の取り組みとしている。		
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	毎月1回地域向け広報紙を発行し、7地区に回覧している。地域の敬老会、盆踊り、芋煮会に参加している。職員は地域の清掃活動に参加している。施設で行なわれる花火大会、運動会に地域の人々の参加があり、利用者と交流が行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員に自己評価、外部評価の意義を説明し、自己評価書に職員が記入できるところは記入してもらい、理解につながるよう取り組んでいる。		
5 (10)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	自治会長、民生委員、地域住民代表3名、消防署署長、地域包括支援センター職員、第三者委員、利用者2名、家族2名、職員のメンバーで2ヶ月に1回行なっている。状況報告、施設からの要望、研修報告等について話し合われている。		
6 (11)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者と連絡を取り合い、相談したり助言を受けながら、サービスの向上に取り組んでいる。岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を立ち上げ、年2回実施し、行政との意見交換の場としている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	一人ひとりのホーム便りに日々の暮らしぶりの写真を載せて作成し、毎月1回、家族へ送付している。家族の来訪時に健康状態や金銭管理を報告している。状態の変化に応じて電話で連絡等行なっている。	
8 (18)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	年1回家族の集いを開き、家族が自由に意見を出せる場を提供している。今年は花火大会後、職員手作りの食事会を行い、13名の参加があり、食事会後家族だけで自由に意見を言える機会を設けている。苦情や相談を受け付ける窓口を定め、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理手続きを明確に定めている。	
9 (20)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	2ユニットで常勤8名、非常勤12名を確保している。夜勤は2ユニットで1名で、宿直1名体制をとっている。朝、夕の慌ただしい時間帯が一人勤務で職員の大変さが伺える。介護度が上がり、夜勤が2ユニットで1人の勤務は職員にとって大変な仕事になっている。急な休みの時は、職員の勤務調整で対応している。	○ ・職員配置の工夫 ・各ユニットに1名の夜勤体制の検討
10 (21)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限に抑える努力をしている。止むを得ない場合は、馴染みの職員と一緒に対応するなど、利用者のダメージがないように配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修に参加したり、岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会の研修に2回、数名の職員が参加している。外部の研修に職員が参加する機会が少ない。内部研修は月1回、課題を決めて行っている。	○ ・外部研修に参加する機会の確保 ・研修計画を立て、全職員のケア内容の充実が図れる研修の実施
12 (24)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	岩国市地域密着型サービス連絡協議会を当法人が提案し設立して、施設が順に協議会を開催し、情報交換を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
13 (31)	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家庭訪問をし本人、家族と話し合い、相談の機会を設けている。入居前に施設を見学してもらい雰囲気を知ってもらえるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
14 (32)	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に食事作りをするなかで、野菜切りなど手早い利用者に助けられたりしている。昔の出来事やことばなどを教えてもらったり、昔の遊びを一緒に楽しんだりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
15 (38)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりや会話、利用者の表情などにも気をつけ、思いや希望を出来るだけ把握し介護記録に記入している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
16 (41)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月1回、ケアカンファレンスをユニット毎に行なっている。把握した本人の思いや家族からの要望を参考に、職員で話し合い、介護計画を作成している。		
17 (42)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回と介護保険更新時に評価を行ない、次のケアプランを作成している。状態変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
18 (44)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診の付き添いや送迎の支援をしている。地域の行事への参加、自宅へ帰って来たい利用者への支援、買物等の個別の外出支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
19 (49)	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医院の月1回の往診、かかりつけ医の往診等、個々の希望に合わせて医療が受けられるように支援している。歯科の往診が2ヶ月に1回あり、口腔ケアが行なわれている。		
20 (53)	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	該当する利用者がいないため、重度化や終末期に向けた方針は検討していない。	○	・重度化や終末期に向けた方針の検討
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
21 (56)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	月1回の内部研修やユニット会議で言葉かけや対応について話し合い、利用者の前での職員間の言葉づかいは特に気をつけるよう配慮している。個人記録はロッカーに保管している。		
22 (59)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間、入浴時間の目安は決まっているが、利用者の体調に合わせて無理なく支援している。一人ひとりが何に興味があるのか把握して、どのように過ごしたいのか理解するように努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
23 (61)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで調理し、職員も利用者と同じ食事を一緒に食べている。誕生会には家族も参加し、献立は本人の希望を取り入れている。食事の盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど利用者と職員が一緒に行なっている。外食も楽しみとなっている。		
24 (64)	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回、曜日を決め14時から17時までとなっているが、希望すれば毎日入浴できるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	踊り、手芸、編物、ミシンを使って雑巾縫い、花の水やり、洗濯物たたみ、掃除、洗濯、食事作り、盛り付け、食器洗いなど、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくっている。美容師の仕事をしていた利用者に夏、浴衣の着付けを家族とともにしてもらい、活躍できる支援をしている。	
26 (68)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買物に出かけたり、もみじやイルミネーションを見にドライブに出かけたり等、戸外にでかけられよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	施設内研修で身体拘束について学び、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室はガラスの引き戸で自由に出入りでき、日中は玄関、居室に鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出をセンサーで察知し職員と一緒に出かけている。	
29 (78)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	施設内研修で窒息時、転倒時の研修を行なっている。事故、ヒヤリはと報告書に記録し、担当者会議で改善策を検討し、一人ひとりの介護計画を立て、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアルを作成している。AEDを購入し、業者の説明で使い方の学習をしている。応急手当や初期対応の訓練は定期的に行なわれていない。	○ ・応急手当や初期対応の研修と定期的な訓練の実施
31 (81)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災や地震、災害時のマニュアルを作成し、火災避難訓練を年2回行ない、1回は消防署の協力を得て行なっている。夜間を想定した訓練も行なっている。運営推進会議や地域への広報回覧などにより、地域の人々の協力が得られている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 秀東館 虹
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733番地
電話番号	(0827) 83-0036
開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日

【実施ユニットの概要】 (11 月 14 日現在)

ユニットの名称	ユニット1				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの利用者数	9 名		男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	2		要介護 4	3
	要介護 2			要介護 5	
	要介護 3	4		要支援 2	
年齢構成	平均 歳	最低 歳		最高 97 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価書を申し送りノートにファイルし、職員全員に確認をしてもらうようにしてその際、記入事項等あれば記入してもらうようにした。記入項目の殆どをユニット2は計画作成者が記入し、管理者に確認をしていただいた。運営者の記入項目については、運営者に確認をとりの記入とした。又、98～110の項目についてはミーティング時に職員に聞いて記入とした。
評価確定日	平成 20 年 11 月 14 日

【サービスの特徴】

施設の建物は、現代建築による高い天井・天窓からの自然の光、自然の風を取り込むことができ、開放感にあふれ、明るく心が和む造りとなっています。開設から2年8ヶ月が過ぎ、行事や施設運営もどのようにしたらよいか、またすべきか少しずつ模索し、検討しているところです。

入居者の方一人ひとりの性格や要望、そして悩み事については、少しずつ信頼関係もうまれ理解でき始めたところです。

お皿を洗ったり、野菜の皮を剥いて食事の下ごしらえをされる時は、本当に生き生きとした笑顔をされますが、突然一変され「もう帰ります」と何度も玄関に向かわれたり、日々一喜一憂される入居者の方に、出来るだけ寄り添えるように、スタッフ同士が情報を共有し、そして協力しながら取り組んでいるところです。

入居者の方が、我が家として安心して暮らしていけるように、家族の方や地域の方も自由に出入りができるように施設内外一切施錠せず、閉鎖感のない開放された体制をとっています。

また、親睦を図る為に家族の方、地域の方を招いての“花火観賞会”“地域交流大運動会”“クリスマス会”を開催し、【大家族主義】の理念のもとに入居者の方、その家族と職員が真の家族になれるよう関係を深めていきたいと思っています。

地域との交流においては、施設の事を知っていただくために、月に一度(情報発信)を回覧しています。また、地域の盆踊り大会へも参加させていただいたり、敬老会への参加、地域ボランティアの方の慰問等を通し交流を深めていきたいと思っています。地域に密着した開かれた施設として、地域の皆様が気軽に立ち寄っていただけるように、一層の努力をしていこうと思っています。

自 己 評 価 票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有				
1 (1)	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	大家族主義の理念の下、入居者の方が地域の中でその人らしく、毎日穏やかな生活が過ごせるように、家庭の温かさを大切にして家族として寄り添うことを掲げている。		
2 (2)	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設の出入り口に理念を提示し、研修会等において職員全員で確認し、また共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	研修会やミーティングにおいて、理念を明確に示している。		
4	○運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	月一度のユニット会議、また毎日行うミーティングにおいて、サービスの質の向上に向けて、支援方法等の検討及び改善を行っている。		
5	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族の方には“虹だより”を、地域の方には“情報発信”を月一度送付または回覧しており、その版において大家族主義を明記している。		
2. 地域との支えあい				
6	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	消防訓練、地域交流大運動会等のお知らせは、近隣の方に配布している。		
7 (3)	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	入居者の方は地域の敬老会に参加し、職員は地域の清掃活動に参加をしている。		
8	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議において、施設完備のAED(自動体外式除細動器)を地域の方にも活用していただけるようお知らせし、使用方法についても職員、地域の方と共に講習会を実施した。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の指摘・アドバイスを受けた内容については改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	外部評価の内容について運営推進会議上、報告・説明を行っているが、意見としてはなかなか挙がってこない状況である。		
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	岩国市地域密着サービス事業者連絡協議会を立ち上げ、行政との意見交換の場を設け、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。又気になる事・分からない事があれば、その都度市の介護保険課に電話で問い合わせをしている。		
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	当施設でも成年後見制度を一人活用されているが、他の入居者の方には必要がないと思われるので、なかなか権利擁護について学ぶ機会はない。成見後見人制度について学ぶ為に、職員へ資料配布をしている。		
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法については、施設内において研修会として学び、虐待の防止に努めている。職員へ資料配布をしている。		
4. 理念を実践するための体制				
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、内容に関し理解し納得していただけるような説明を心がけ、不明な点についてはいつでも聞けるような環境づくりに努めている。		
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を明記し、第三者委員を設けている。要求等の申し出に関しては、毎日のミーティングや月一度のユニット会議で提示し、打開策を検討している。		
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	各個人毎に“虹だより”を作成し、暮らしぶり等紹介をしており、家族の来館時には、健康状態を報告し、金銭管理に関しては、個人の出納簿を確認していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	情報開示の要求に応じ対応したいと思うが、今までに要求されたことがない。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	“家族の集い”において、運営に関して意見等が出せる機会を設けている。苦情相談窓口・地域包括支援センター・国保連合会・第三者委員について重要事項説明書に明記し、苦情処理するために講ずる概要を説明している。		
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や日々のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できる内容については反映させている。		
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常に基準以上の人員配置をしている。		
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限度に抑える努力をしているが、止むを得ない場合もあり、その際は入居者の方のダメージがないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	秀東館グループでの全体研修に参加したり、岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会での他施設での研修という機会を設けている。又施設内研修については 研修内容の課題を職員が順番に決め1ヵ月に1回研修発表している。		
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20～60代と多様な職員を配置し、その資質を生かし大家族として利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	岩国市地域密着型サービス連絡協議会を当法人が提案・設立し、協議会を開催し情報交換をしている。また職員に関しても、研修会を各施設持ち回りで実施しているので、参加できるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	秀東館グループで、忘年会等親睦の場を設けている。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	毎日のミーティングを実施することにより、入居者の処遇はもちろんのこと職員の現場での諸問題に対する解決策を、その都度協議している。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	管理者をはじめ職員の業務状況を現場で確認し、研修のレポート等の提出によりチェックした後、毎年の昇給額を決めて支給している。		
1. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前訪問、面接をさせていただき、本人の感情表現を自由に表出できるような場をつくり受容に努めている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前訪問、初回面接をさせていただき、ご家族から情報収集をし家族の感情を敏感に受け止め、表出された感情の意味を理解し受容に努めている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービス利用の対応はしていないが、他の施設への空き情報を確認し紹介したことはある。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設の概要、または雰囲気等知っていただく為に、事前に施設の見学を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の方と共に過ごしていく中で コミュニケーションの中で昔の出来事・知恵など人生勉強を学び、又昔の遊びに関しては一緒に楽しめるような関係を築いている。	○	入居者の方の話をしっかり傾聴し、共に動き同じ立場に立てよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来館時や電話連絡の際に、ご家族の思いや相談を聴かれるよう時間をとることを心がけている。また行事のある時には参加していただき、入居者の方、職員と同じ思いを分かちあえるよう心がけている。		
34	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人との会話の中から、その思いを家族に伝えたり、時にはなだめたりと、家族がより良い関係でいられるよう支援している。	○	職員がもっと認知に対する知識を深めていきたいと思う
35	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所は個々によるので、会話の上だけとなっているが、馴染みの人に関しては、いつでも面会は可能であり関係が途切れないよう支援に努めている。		
36	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々のミーティング時において、入居者同士の関わりについて、トラブル等気になることがあれば、対応策について話し合っている。又孤立しがちな方は、他入居者との間に職員が入り会話作りに努め会話を楽しみ・関わり合いの機会を支援している。	○	トラブルが大きくならないよう対応しているが、早めに対応できるよう見守りを徹底していきたい。
37	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了し、退居された方のご家族が来館されることもあるので、断ち切らない関係を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を大切にしよう努めている。		
39	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前の訪問時に得た生活歴・生活環境、または病歴等を情報提供表にして職員に提示し、状況把握に努めている。		
40	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケース記録・介護記録等に記載し、現状を把握できるよう努めている。	○	一人ひとりの支援の方向性を職員全員が統一できるよう、またケース等の記録も支援に基づいて記入できるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○	介護計画に取り入れられるよう、ご家族と具体的なケア方法について話し合うようにしていきたい。
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合の計画変更をすばやく行えるよう努めたい。
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	ケース記録の記述について研修を重ねたいと考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		地域のボランティア(フォークダンスの会・舞踊の会・書道・童謡クラブ)の慰問、近隣の小学校の児童との交流をもっている。
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。		他施設運営者の研修の場として受入れをし、見学はいつでも可能としている。
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		入居者状況や施設の概要についての問い合わせの対応は他介護支援専門員やサービス事業者の方と話し合っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に毎回出席いただけるので、その際意見交換をして協働している。		
49 (19)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々の希望に合わせ、医療が受けられるように協力病院またはかかりつけ医と連携を保ちながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
50	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医にて職員同行のもと受診し、現状報告をしたり 状態変化が見られるような場合 施設・専門医・家族との連携を図り治療を受けながらどう対応していくか話し合い支援している。		
51	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の看護師には、電話等で問い合わせをし、日常の健康管理の支援に結びつけている。		
52	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	地域医療連携の相談員の方と情報交換し、相談をしている。また主治医と連絡をとり、説明を受けるようにして連携を図っている。		
53 (20)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	今までは該当する方がいない。		
54	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今までは該当する方がいない。		
55	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族・本人・関わるケア関係者間で十分な話し合いを行い 情報収集にて情報交換を行い 住み替えによる精神面配慮・ダメージ防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	○	気になる対応等あれば、その場で注意ができるような人間関係を築いていきたいと思う。
57	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	○	傾聴ボランティアの会を利用したいと思っている。
58	○ “できる力”を大切にしたい家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。		
59 (22)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	○	職員のペースに巻き込むのではなく、一人ひとりの入居者の方のペースを大切に支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		
61 (23)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		
62	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		
63	○ 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	週3回と入浴の曜日は決めているが、体調や本人の意思に添え入浴ができるよう、曜日を変えたり 順番の要望を聞き ゆっくりとくつろげれる、入浴ができるよう支援している。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	入居者1人ひとりの睡眠パターンを把握し 日中の活動支援をし 自然に睡眠が促せるよう安眠策を支援している。夜間は、状況を見て室温や湿度の調節を行っている。	○	夜間の声かけのタイミングをはかり、汚染時の更衣等ないよう排泄の誘導を心がけたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者一人ひとりの残存能力を生かし 日々の生活リハビリにて 活躍できる場面作りに支援している。(掃除・洗濯・食事作り・盛り付け・食器洗い)趣味活動・外出・ドライブなど楽しみごと・気晴らしの支援を行っている。	○	個別の支援の時間を増やしていきたい。
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談して本人の状況に合わせ、本人がお金を所持し使えるよう支援している。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物、ドライブと支援している。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に一度はレクリエーションで、外出に機会を設けている。またご家族の方との外出や外食、旅行に行かれる場合もある。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由にさせていただいている。手紙も届けば本人にお渡ししている。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の方々が遠慮なく訪問できるように 職員が声掛けをし、お茶出しを行い居心地よく過ごせるよう温かい雰囲気作りをしている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望されれば居室への宿泊が可能であることを説明している。	○	外泊となるとご家族の負担のあると思うので、施設への宿泊を考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	地域交流大運動会や花火大会、または誕生日会等には案内をして参加をお願いしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	自立支援の場を大切にするには残存能力を保持できるよう対応・心がけについて常に話し合っている。又、施設内研修において魔の3大ロック拘束について再確認をし、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中どの場所も施錠せず、自由に出入り・窓の開閉ができるようにしている。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リビングには、職員は見守りしやすい位置・入居者の側にいて所在確認・見守り・様子の把握をし安全に配慮している。日中は施錠せず、施設の四方にあるセンサーを利用して利用者の方の所在確認をしている。夜間は2時間毎に巡視を行っている。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状況に合わせたいが、今は注意が必要な物を居室に置かないよう配慮している。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	施設内研修において、窒息時、転倒時の研修を行なっている。また火災については、定期的に日中・夜間の想定をして訓練を実施している。年一度は消防の方の参加をいただいている。	○	定期的に研修の場を設け、事故防止に努めたい。
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、見えやすい場所に貼付している。	○	緊急時の対応について勉強会を重ねたい。
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書やヒヤリハット報告書は職員全員に提示し、確認した上で記名をするようにしている。また担当者会議にて話し合い 再発防止の改善策として必ずケアプランに改善策を立案している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災や地震、災害時のマニュアルを作成し、実施訓練を施行しており、その後職員間で話し合い、マニュアルに反映させている。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こりえるリスクについては、その都度説明はしている。	○	必要に応じ、対応策等も家族と共に話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化や異変に気づいた際、速やかに主治医に報告し指示を仰ぐようにしている。	○	申し送り事項等の確認・把握に努めたいと思う。
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員がすぐに確認できるよう個人の医療ノートを作成し、状況判断ができるよう努めている。服薬に関しては、毎回薬剤師より注意事項等の説明・指導を受けている。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給や適度な運動、または食事に配慮し、必要に応じ主治医に報告・相談し、指示を仰いでいる。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	2カ月に一度歯科往診を受け、噛み合わせやブラッシング指導を受けている。毎食後、個別に口腔ケアにて口腔内清潔保持の支援・肺炎予防に努めている。定期的にボランティアにて義歯洗浄・保管している。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の立てる献立に従って食事を作り、食事量は個人に合わせ、量や水分量の確保に努め記録に残している。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	職員が感染症の研修会に参加し、参加した職員が情報を施設に持ち帰り報告している。また施設でもマニュアルを作成し、感染症の予防対策として実行している。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理マニュアルを作成し、食材の管理等は毎週日曜日に確認をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。		
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		
97	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		玄関前では、テーブルを出しておやつの時間を持ったり、施設の外回りを散歩し季節を感じていただいたりしている。また広い駐車場では、地域の方、ご家族の方と共に毎年地域交流大運動会を開催している。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
・サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 秀東館 虹
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733番地
電話番号	(0827) 83-0036
開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日

【実施ユニットの概要】 (11 月 14 日現在)

ユニットの名称	ユニット2			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	2	要介護 4	3
	要介護 2		要介護 5	
	要介護 3	4	要支援 2	
年齢構成	平均 88 歳	最低 77 歳	最高 100 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価書を申し送りノートにファイルし、職員全員に確認をしてもらうようにしてその際、記入事項等あれば記入してもらうようにした。記入項目の殆どをユニット2は計画作成者が記入し、管理者に確認をしていただいた。運営者の記入項目については、運営者に確認をとり記入をした。又、98～110の項目についてはミーティング時に職員に聞いて記入とした。
評価確定日	平成 20 年 11 月 14 日

【サービスの特徴】

施設の建物は、現代建築による高い天井・天窓からの自然の光、自然の風を取り込むことができ、開放感にあふれ、明るく心が和む造りとなっています。開設から2年8ヶ月が過ぎ、行事や施設運営もどのようにしたらよいか、またすべきか少しずつ模索し、検討しているところです。

入居者の方一人ひとりの性格や要望、そして悩み事については、少しずつ信頼関係もうまれ理解でき始めたところです。

お皿を洗ったり、野菜の皮を剥いて食事の下ごしらえをされる時は、本当に生き生きとした笑顔をされますが、突然一変され「もう帰ります」と何度も玄関に向かわれたり、日々一喜一憂される入居者の方に、出来るだけ寄り添えるように、スタッフ同士が情報を共有し、そして協力しながら取り組んでいるところです。

入居者の方が、我が家として安心して暮らしていけるように、家族の方や地域の方も自由に出入りができるように施設内外一切施錠せず、閉鎖感のない開放された体制をとっています。

また、親睦を図る為に家族の方、地域の方を招いての“花火観賞会”“地域交流大運動会”“クリスマス会”を開催し、【大家族主義】の理念のもとに入居者の方、その家族と職員が真の家族になれるよう関係を深めていきたいと思っています。

地域との交流においては、施設の事を知っていただくために、月に一度(情報発信)を回覧しています。また、地域の盆踊り大会へも参加させていただいたり、敬老会への参加、地域ボランティアの方の慰問等を通し交流を深めていきたいと思っています。地域に密着した開かれた施設として、地域の皆様が気軽に立ち寄っていただけるように、一層の努力をしていこうと思っています。

自 己 評 価 票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有				
1 (1)	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	大家族主義の理念の下、入居者の方が地域の中でその人らしく、毎日穏やかな生活が過ごせるように、家庭の温かさを大切にして寄り添うことを掲げている。		
2 (2)	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設の出入り口に理念を提示し、研修会等において職員全員で確認し、また共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	研修会やミーティングにおいて、理念を明確に示している。		
4	○運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	月一度のユニット会議、また毎日行うミーティングにおいて、サービスの質の向上に向けて、支援方法等の検討及び改善を行っている。		
5	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族の方には“虹だより”を、地域の方には“情報発信”を月一度送付または回覧しており、その版において大家族主義を明記している。		
2. 地域との支えあい				
6	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	消防訓練、地域交流大運動会等のお知らせは、近隣の方に配布している。		
7 (3)	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	入居者の方は地域の敬老会に参加し、職員は地域の清掃活動に参加をしている。		
8	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議において、施設完備のAED(自動体外式除細動器)を活用していただけるようお知らせし、使用方法についても職員、地域の方と共に講習会を実施した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	情報開示の要求に応じ対応したいと思うが、今までに要求されたことがない。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情相談窓口・地域包括支援センター・国保連合会・第三者委員について重要事項説明書に明記し、苦情処理するために講ずる概要を説明している。また“家族の集い”において、意見等が出せる機会を設けている。		
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や日々のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できる内容については反映させている。		
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常に基準以上の人員配置をしている。		
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限度に抑える努力をしているが、止むを得ない場合もあり、その際は入居者の方のダメージがないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	秀東館グループでの全体研修に参加したり、岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会での他施設での研修という機会を設けている。		
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20～60代と多様な職員を配置し、大家族主義の理念の下、入居者の方の幅広いニーズに答えられるように配慮している。		
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	岩国市地域密着型サービス連絡協議会を当法人が提案・設立し、協議会を開催し情報交換をしている。また職員に関しても、研修会を各施設持ち回りで実施しているので、参加できるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	秀東館グループで、忘年会等親睦の場を設けている。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	毎日のミーティングを実施することにより、入居者の処遇はもちろんのこと職員の現場での諸問題に対する解決策を、その都度協議している。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	管理者をはじめ職員の業務状況を現場で確認し、研修のレポート等の提出によりチェックした後、毎年の昇給額を決めて支給している。		
1. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前訪問、面接をさせていただき、本人自身から聴く機会をつくり受けとめられるよう努めている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前訪問、面接をさせていただき、ご家族から聴く機会をつくり受けとめられるよう努めている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービス利用の対応はしていないが、他の施設への空き情報を確認し紹介したことはある。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設の概要、または雰囲気等知っていただく為に、事前に施設の見学を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の方が得意とされることを職員が教えてもらったり、遊びに関しては一緒に楽しめるような関係を築いている。	○	入居者の方の話をしっかり傾聴し、共に動き同じ立場に立てよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来館時や電話連絡の際に、ご家族の思いや相談を聴かれるよう時間をとることを心がけている。また行事のある時には参加していただき、入居者の方、職員と同じ思いを分かちあえるよう心がけている。		
34	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人との会話の中から、その思いを家族に伝えたり、時にはなだめたりと、家族がより良い関係でいられるよう支援している。	○	職員がもっと認知に対する知識を深めていきたいと思う
35	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所は個々によるので、会話の上だけとなっているが、馴染みの人に関しては、いつでも面会は可能であり関係が途切れないよう支援に努めている。		
36	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々のミーティング時において、入居者同士の関わりについて、トラブル等気になることがあれば提示し、対応策について話し合っている。	○	トラブルが大きくならないよう対応しているが、早めに対応できるよう見守りを徹底していきたい。
37	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が修了し、退居された方のご家族が来館されることもあるので、断ち切らない関係を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を大切にしよう努めている。		
39	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前の訪問時に得た生活歴・生活環境、または病歴等を情報提供表にして職員に提示し、状況把握に努めている。		
40	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケース記録・介護記録等に記載し、現状を把握できるよう努めている。	○	一人ひとりの支援の方向性を職員全員が統一できるよう、またケース等の記録も支援に基づいて記入できるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○	介護計画に取り入れられるよう、ご家族と具体的なケア方法について話し合うようにしていきたい。
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合の計画変更をすばやく行えるよう努めたい。
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	ケース記録の記述について研修を重ねたいと考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		地域のボランティア(フォークダンスの会・舞踊の会・書道・童謡クラブ)の慰問、または近隣の小学校の児童との交流をもっている。
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。		他施設運営者の研修の場として受入れをし、見学はいつでも可能としている。
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		必要に応じ、たの介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する支援をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に毎回出席いただけるので、その際意見交換をして協働している。		
49 (19)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々の希望に合わせ、医療が受けられるように協力病院またはかかりつけ医と連携を保ちながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
50	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医にて職員同行の下受診し、現状報告をして相談する機会を設けている。		
51	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の看護師には、電話等で問い合わせをし、日常の健康管理の支援に結びつけている。		
52	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	地域医療連携の相談員の方と情報交換し、相談をしている。また主治医と連絡をとり、説明を受けるようにして連携を図っている。		
53 (20)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	今までは該当する方がいない。		
54	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今までは該当する方がいない。		
55	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族に移り変わることを理由や利点を説明して理解いただけるよう努め、新施設に対しては情報交換を充分するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	○	気になる対応等あれば、その場で注意ができるような人間関係を築いていきたいと思う。
57	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	○	傾聴ボランティアの会を利用したいと思っている。
58	○ “できる力”を大切にしたい家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。		
59 (22)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	○	職員のペースに巻き込むのではなく、一人ひとりの入居者の方のペースを大切に支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		その人らしい身だしなみについては支援しているが、理容については、施設に来館してくれる美容師を利用しているので、望む店とは言えないと思う。
61 (23)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		誕生日の献立については本人の希望を取り入れ、日々の昼食は職員も入居者の方と同じテーブルにつき、同じ食事を摂っている。
62	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		飲み物やおやつは日常的に楽しめるように季節の食材を使い季節感を味わえるよう支援している。またお酒についても、行事の際お出しすることもある。たばこについては、吸われる方はいない。
63	○ 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		排泄の失敗を減らせるよう、前誘導を心がけ、失敗した時間の統計をとるなど、ミーティングで確認しあい、気持ちよい排泄の支援をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	週2回と入浴の曜日は決めているが、体調や本人の意思に添えるよう、曜日を変えて入浴を楽しめるように支援している。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	日中でもフロアのソファで居眠りをされたり、時には居室で休まれたりと個人に合わせて支援している。夜間は、室温や湿度の調節など快適に休んでいただけるよう支援している。	○	夜間の声かけのタイミングをはかり、汚染時の更衣等ないよう排泄の誘導を心がけたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの楽しみや、気ばらしができるよう支援している。	○	個別の支援の時間を増やしていきたい。
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談して本人の状況に合わせ、本人がお金を所持し使えるよう支援している。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物、ドライブと支援している。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に一度はレクリエーションで、外出に機会を設けている。またご家族の方との外出や外食、旅行に行かれる場合もある。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由にさせていただいている。手紙も届けば本人にお渡ししている。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来ていただけるよう声かけはしている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望されれば居室への宿泊が可能であることを説明している。	○	外泊となるとご家族の負担のあると思うので、施設への宿泊を考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	地域交流大運動会や花火大会、または誕生日会等には案内をして参加をお願いしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	施設内研修において拘束について再確認をし、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中どの場所も施錠せず、自由に出入りができるようにしている。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は施錠せず、施設の四方にあるセンサーを利用して利用者の方の所在確認をしている。夜間は2時間毎に巡視を行っている。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状況に合わせたいが、今は注意が必要な物を居室に置かないよう配慮している。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	施設内研修において、窒息時、転倒時の研修を行なっている。また火災については、定期的に日中・夜間の想定をして訓練を実施している。年一度は消防の方の参加をいただいている。	○	定期的に研修の場を設け、事故防止に努めたい。
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、見えやすい場所に貼付している。	○	緊急時の対応について勉強会を重ねたい。
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書やヒヤリはっと報告書は職員全員に提示し、確認した上で記名をするようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災や地震、災害時のマニュアルを作成し、実施訓練を施行しており、その後職員間で話し合い、マニュアルに反映させている。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こりえるリスクについては、その都度説明はしている。	○	必要に応じ、対応策等も家族と共に話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化や異変に気づいた際、速やかに主治医に報告し指示を仰ぐようにしている。	○	申し送り事項等の確認・把握に努めたいと思う。
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員がすぐに確認できるよう個人の医療ノートを作成し、状況判断ができるよう努めている。服薬に関しては、毎回薬剤師より注意事項等の説明・指導を受けている。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	起き掛けの水分補給や運動、または食事に配慮し、必要に応じ主治医に報告・相談し、指示を仰いでいる。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、個別に口腔内の清潔保持の支援に努めている。また2ヶ月に一度歯科往診を受け、噛み合わせやブラッシング指導を受けている。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の立てる献立に従って食事を作り、食事量は個人に合わせ、量や水分量の確保に努め記録に残している。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症の研修会に参加し、情報は施設に持ち帰り報告している。また施設でもマニュアルを作成し、感染症の予防対策として実行している。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理マニュアルを作成し、食材の管理等は毎週日曜日に確認をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<u>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</u> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
91 (36)	<u>○居心地のよい共用空間づくり</u> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
92	<u>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</u> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
93 (37)	<u>○居心地よく過ごせる居室の配慮</u> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
94	<u>○換気・空調の配慮</u> 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<u>○身体機能を活かした安全な環境づくり</u> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。		
96	<u>○わかる力を活かした環境づくり</u> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		
97	<u>○建物の外周リや空間の活用</u> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		玄関前では、テーブルを出しておやつを持ったり、施設の外回りを散歩し季節を感じていただいたりしている。また広い駐車場では、地域の方、ご家族の方と共に毎年地域交流大運動会を開催している。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
・サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の１／３くらいの	利用者の２／３くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に１回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の１／３くらいが	利用者の２／３くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の１／３くらいが	利用者の２／３くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の１／３くらいが	利用者の２／３くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の１／３くらいが	利用者の２／３くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の１／３くらいが	利用者の２／３くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の１／３くらいと	家族の２／３くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に１回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の１／３くらいが	職員の２／３くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の１／３くらいが	利用者の２／３くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の１／３くらいが	家族等の２／３くらいが ほとんどできていない